

「1950年代教育史」研究部会（第15回）

日時：2017年5月26日（金）13：00～15：20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員

吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：研究員研究報告

（1）米田俊彦：「政権と文部官僚—『文部省』を手がかりに(3)—」

- ・前回の続きで最後のテーマまでまとめる
[文部省は何を考えているのか—重要問題の経過と将来—]
- ・教育の指導権奪い合いはいつまで続く
- ・思いつき政策の犠牲になった教育委員会
[文部行政の陥没地帯を衝く]
- ・何もし得なかったバラバラ入試行政
- ・生徒層(*)に追いつけぬ六・三校舎（*原文ママ：生徒増の間違い?）
- ・六・三制教育の落とし子、働くものの教育

（2）須田将司：前回に続き、臼井嘉一『戦後日本の教育実践—戦後教育史像の再構築をめざして—』を読み、以下の3章について内容検討

- ◆第4章 戦後「民間教育運動」の形成と地域教育実践
- ◆第5章 日本社会の基本問題と社会科三プラン
- ◆第7章 戦後郷土教育運動と「地域と教育の会」
 - ・北海道空知支庁奈井江町「奈井江町社会科サークル」
 - ・日本生活教育連盟、全国青年教師連絡協議会
 - ・社会科三プラン（香川社研青年グループ、上越教師の会、東京社会科サークル）
 - ・郷土教育全国連絡協議会
日本生活教育連盟、郷土教育全国連絡協議会などの黎明期を支えた若手教員の模索について

・次回研究会は、2017年6月30日13:00～。大島研究員・鳥居研究員の研究報告